



つじ 史子  
公明党田原市議団



## 不適切な画像を検知する防犯アプリ導入の考えは

具体的な活用方法を紹介し、導入を推奨していく

### 子どもをデジタル犯罪やネット上のいじめから守るための取り組みについて

- 問** 子どもを被害者にも加害者にもさせないための今後の取り組みは。
- 答** 危険の察知や法の理解と遵守について、児童生徒の情報モラルの向上を図っていく。
- 問** 愛知県警が開発したコドマモアプリは、タブレット端末にインストールすると、AIで写真や不適切な画像を検知し、削除する。また、検知後は画面上で警告するほか、市教育委員会と学校管理職にメールが届く。こうした防犯アプリの導入について、市の考えは。
- 答** 有効な手段だが、市としては子どもを守るのは大人の目が最も重要だと考えている。アプリの導入は、親子スマホ教室等で具体的な活用方法を紹介しており、引き続き導入を推奨していく。

### 成年後見制度の利用促進について

- 問** 成年後見人や被後見人は市税、国民健康保険、障害福祉、高齢者福祉など多岐にわたる手続きを各窓口で個別に行う必要があり、手続きの煩雑さや負担が大きい現状がある。各種通知等の送付先の変更を一括して登録、変更できる仕組みを導入することが有効と考えるが、どうか。
- 答** 関係各課と他市の取り組みを確認しつつ、仕組みの導入に関して検討していく。



- 問** いじめ防止には保護者や地域との協働が不可欠であるが、コミュニティ・スクールをどう生かすのか。
- 答** 地域住民が学校に関わる機会を増やし、顔の見える関係を築くことで、学校外での異変を早期に察知し、学校へフィードバックする仕組みを強化している。
- 問** いじめの予兆を見逃さないためには教職員の心の余裕が必要だと考えるが、そのための取り組みは。
- 答** 業務の精査により、外部委託できる業務を切り分ける等、事務作業の効率化などにより、教員が子どもと向き合う時間を確保する取り組みを進めている。